

# シンポジウム 棚田保全に多くの大学生を参画させるには？

## 報告テーマと報告者プロフィール

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>基調報告 「農業農村を応援する大学生サークルと 農業集落のマッチング方策の構築と実証」に関する研究</b></p> <p>中里 良一 (なかざと りょういち) 農業農村を応援する大学生サークルネット 代表<br/>                 福岡生まれ。博士(農業工学)。NPO 法人せんがまち棚田倶楽部理事。関東、甲信越、北陸、沖縄の15大学の学生サークルで構成される「農業農村を応援する大学生サークルネット」代表として、農業やむらづくりの応援のために大学生を派遣しており、白米千枚田(世界農業遺産)の保全活動も応援している。静岡県在住の時に菊川市上倉沢地区の棚田保全活動に関わり、保全組織のNPO法人化や「静岡大学棚田研究会」の設立を主導した。鳥取県在住の時に棚田保全活動の動機付けの仕組みとして「棚田ファンクラブ」等を設立した。山梨県立大学理事職。</p> |   |  |
| <p><b>事例報告(1)</b><br/>「学生ボランティア・棚田ふぁむ」の取り組み</p> <p>大浦 由美 (おおうら ゆみ)<br/>和歌山大学観光学部 観光学科 教授</p>  <p>東京生まれ。信州大学大学院農学研究科(林学専攻)修了。博士(農学)。専門は森林経済学、森林政策学で、近年は「交流で育む豊かな森・里・人の暮らし」をテーマに研究活動を行っている。2010年頃から和歌山県有田郡有田川町沼地区において学生とともに棚田保全活動を開始。現在学部の地域連携担当として、大学生による地域活動支援のあり方について日々模索している。</p>                                    | <p><b>事例報告(2)</b><br/>常葉大学の学生による石部地区(静岡県松崎町)での取り組み</p> <p>小湊 航 (こみなと わたる)<br/>ふじとこ伊豆プロジェクトいっぶく亭リーダー<br/>常葉大学社会環境学部 地域社会コース</p> <p>静岡市生まれ。常葉大学社会環境学部所属しており、主に環境問題と地域社会について学んでいる。2014年から「ふじとこ伊豆プロジェクト」の活動に参加している。現在では、「いっぶく亭」のリーダーとして、地元食材を使って料理を作り、店を訪れる人に振る舞っている。</p>  | <p><b>事例報告(3)</b><br/>静岡大学「棚田研究会」による上倉沢地区(静岡県菊川市)での取り組み</p> <p>清口 友也 (みぞぐち ともや)<br/>静岡大学棚田研究会 代表(7代目)<br/>静岡大学農学部生バイオサイエンス学科卒業</p> <p>静岡県浜松市生まれ。大学入学後友人に連れられて棚田研究会の活動の見学をした。棚田の風景に惚れ、以後棚田研究会のメンバーとして活動。NPO法人せんがまち棚田倶楽部と共に棚田保全に努める。「農業・農村を応援する大学生サークルネットワーク」に加入。おしゃべりが好きでうるさいと注意されることも...</p>  |
| <p><b>事例報告(4)</b><br/>三重大学の学生による棚田地区災害復旧の取り組み</p> <p>伊藤 良栄 (いとう りょうえい)<br/>三重大学大学院生物資源学研究所 助教</p> <p>新潟市生まれ。土地改良事業のお陰で地元の湿田が乾田化されて優良農地になったことを知り、農業土木に興味を持つ。東京大学農学部で博士号を取得。現在の専門は農業情報学とかんがみ排水学。三重大学に赴任後、15年程前、白米千枚田のオーナーになり、田植えと稲刈りを体験した。2006年より学生と農村災害ボランティア活動(農村災害お助け隊)を始め、棚田を含む農地の災害復旧に取り組んでいる。</p>                 | <p><b>パネラー</b><br/>藤原 広大 (ふじわら こうだい)<br/>ふじとこ伊豆プロジェクト「青空マルシェ」リーダー<br/>常葉大学社会環境学部 地域社会コース</p> <p>静岡県富士市生まれ。常葉大学富士キャンパス3年地域社会コースを専攻。2014年より、「ふじとこ伊豆プロジェクト」に参加。静岡県松崎町石部地区にて地域の方々の声を聞き、地域活性化を目的として活動している。現在は、「青空マルシェ」のリーダーとして地場産品の販売を主に行っている。</p>                          | <p><b>コーディネーター・司会</b><br/>山路 永司 (やまじ えいじ)<br/>棚田学会 副会長<br/>東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授</p> <p>愛媛県西条市生まれ。小学校の遠足で、千町(せんじょう)の棚田まで歩く。石垣がとても美しいところ。耕作田は大層に減ったが、地元高校生やNPOの保全活動が嬉しい。大山千枚田では、草刈りボランティアを経てオーナーに昇格。2007年第1回泥んこバレーボール大会に参加し、東京大学チームの優勝に貢献。おまけにダイエットにも成功。収穫祭等で「棚田へ行こう」を声カセットで歌うのも楽しみ。</p>       |

### 申し込み用紙

シンポジウムに参加します。  懇親会(会費3,500円、学生1,500円)にも参加します。  
 棚田学会入会希望(懇親会参加ご希望の方、また入会ご希望の方は口印にし印を付けて下さい)

お名前 \_\_\_\_\_ 所属 \_\_\_\_\_

☎ \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

今後棚田学会の催し物の案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。  
 申し込み先…FAX: 042-385-1180 E-mail: tanadagakai@gmail.com(大会事務局専用)

### 棚田学会への入会の呼びかけ

棚田に学ぼう、棚田で遊ぼう、  
 棚田を守ろうをモットーに、  
 皆で楽しく活動しましょう。

年会費：普通会員 4,000円  
 学生会員 2,000円  
 賛助会員 10,000円  
 法人会員 30,000円以上  
 ホームページ…  
<http://tanadagakai.com>